

細川藤次・高橋洋文両先生のご定年退職にあたって

その他のタイトル	Dean's Message to Professors Fujitsugu HOSOKAWA and Hirofumi TAKAHASHI
著者	宮下 文彬
雑誌名	情報研究：関西大学総合情報学部紀要
巻	13
ページ	1-1
発行年	2000-07-21
URL	http://hdl.handle.net/10112/00020298

細川藤次・高橋洋文両先生のご定年退職にあたって

総合情報学部長 宮下 文彬

本学部が創設されてから早や6年を経過した。学会・産業界から幾多の先生方を招聘してこの学部が創設されたことは既にご承知のとおりである。

「学部が一人前になるには20年かかる」とは本学工学部の創設期にご苦勞をされた先生方からよく聞かされた言葉ではある。特に、卒業生を出すまでの4年間、学年進行に伴う慌ただしい中で大学院の設立をもって、教育・研究機関としての体裁が整ったことを考えれば、少なくとも、博士課程を修了し情報学博士を有する人材を輩出することができてこそ、総合情報学部が一人前となる条件ではなかろうか。

奇しくも、本年3月に第1回の大学院修士課程修了生を輩出し、さらに4月には博士課程が開設され、高槻キャンパス唯一の学部として飛躍しようとしている最中、創設以来の教授として学部や大学院の充実にご尽力いただいた細川藤次・高橋洋文両先生のご定年退職という年を迎えた。やがてはその時期が来るとはいえ、学部創設の最も多忙な時期に同僚として、また、人生の先輩として、多くの教訓を残していただいた両先生に感謝申し上げる次第である。

細川先生は、ご経歴にあるように、前任校である神戸大学では理学部長もお勤めになり、特に数学教育の専門家でもあり、数々の中学・高等学校の数学教科書の編著者・監修者としてご高名である。先生から教えをいただいた学生諸君にとって、高等学校で習った数学とは一味違った授業を受け、数学への興味を誘われたことであろう。

高橋教授は、国際ネットワーク論をご担当であったことから分かるように、日本の通信を一手に引き受けていた電電公社（現NTT）にお勤めになり、その後、財団法人電気通信研究所の役員としてその設立にご尽力されると共に、研究者の道に進まれた。学生には最新のネットワーク論を展開され、興味深い講義をしていただいた。

学部の発展にご尽力いただいた両先生に深甚の謝意を表すると共に、いつまでもご壮健でありますことを祈念いたします。